

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 特許公報(B1)

(11) 特許番号

特許第6577098号  
(P6577098)

(45) 発行日 令和1年9月18日(2019.9.18)

(24) 登録日 令和1年8月30日(2019.8.30)

(51) Int. Cl. F 1  
A O 1 K 1/015 (2006.01) A O 1 K 1/015 A

請求項の数 6 (全 9 頁)

(21) 出願番号	特願2018-135711 (P2018-135711)	(73) 特許権者	518257079
(22) 出願日	平成30年7月19日(2018.7.19)		清水 智恵子
審査請求日	平成31年2月6日(2019.2.6)		東京都豊島区池袋3-67-5-102
早期審査対象出願		(74) 代理人	110000198
			特許業務法人湘洋内外特許事務所
		(72) 発明者	清水 智恵子
			東京都豊島区池袋3-67-5-102
		審査官	竹中 靖典

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 ペット用吸収シート

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項1】

透液性の表面材と、  
不透液性の裏面材と、  
吸収材と、を備えるペット用吸収シートであって、  
前記表面材と前記裏面材との間に前記吸収材を包んで構成される吸収部と、  
前記吸収材を包む前記表面材と前記裏面材とが延出して該吸収部を囲うように設けられた延長部と、を備え、  
複数の前記吸収部が、前記延長部の端部を互いに接続して配列されており、  
前記延長部は、前記吸収部から外側に向かって上方に延びる第1の傾斜面を有し、  
接続した前記延長部の端部どうしが、上方に向かって凸部を形成している

ことを特徴とするペット用吸収シート。

10

【請求項2】

請求項1に記載のペット用吸収シートであって、  
前記複数の吸収部を二次元方向に配列することで構成されている

ことを特徴とするペット用吸収シート。

【請求項3】

請求項1または2に記載のペット用吸収シートであって、  
前記延長部は、前記第1の傾斜面の端部から下がる第2の傾斜面を有し、  
接続した前記延長部の端部どうしが、上方に向かって複数の凸部を形成している

20

ことを特徴とするペット用吸収シート。

【請求項 4】

請求項 1 ~ 3 のいずれか一項に記載のペット用吸収シートであって、  
接続した前記延長部の端部どうしの外側の端に切欠きが形成されている  
ことを特徴とするペット用吸収シート。

【請求項 5】

請求項 1 ~ 4 のいずれか一項に記載のペット用吸収シートであって、  
前記凸部に、切断箇所の目安となるマークが表示されている  
ことを特徴とするペット用吸収シート。

【請求項 6】

請求項 1 ~ 5 のいずれか一項に記載のペット用吸収シートであって、  
前記吸収部は、前記延長部を切断することにより、別のペット用吸収シートとして使用  
できる

ことを特徴とするペット用吸収シート。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、ペット用吸収シートに関する。

【背景技術】

【0002】

ペット用の吸収シートは、ペットの排泄によって汚れた場合に交換されるが、ほんの一部分の汚れであっても、シート全体を交換しなければならず無駄となる部分が多い。

【0003】

特許文献 1 には、1 枚のシートからなるペット用吸収シートが記載されている。

【先行技術文献】

【特許文献】

【0004】

【特許文献 1】特開 2008 - 43243 号公報

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【0005】

猫などのペットは、排泄する場所に癖を持っており、ペット用吸収シートの特定箇所のみが排泄物で汚れることが多い。しかし、特許文献 1 のように、1 枚のシートからなるペット用吸収シートでは、一部分が汚れてしまうと、シート全部を交換しなければならない。

【0006】

また、ペット用の吸収シートは、排泄物の吸収材に顆粒状のポリマー等が用いられているため、シートの汚れた部分のみをカットして廃棄しようとする、ポリマー等がこぼれ、掃除が煩雑となったりペットが誤飲したりする恐れがある。

【0007】

本発明の目的は、ペット用吸収シートの一部分をカットしても吸収材がこぼれず、カットした一部分を使用することができる利便性の高いペット用吸収シートを提供することにある。

【課題を解決するための手段】

【0008】

本発明は、上記課題の少なくとも 1 つを解決するものであるが、その例を挙げるならば、次の通りである。すなわち、本発明の一態様であるペット用吸収シートは、透液性の表面材と、不透液性の裏面材と、吸収材と、を備え、表面材と裏面材との間に吸収材を包んで構成される吸収部と、吸収材を包む表面材と裏面材とが延出して該吸収部を囲うように設けられた延長部と、を備え、複数の吸収部が、延長部の端部を互いに接続して配列され

10

20

30

40

50

ていてもよい。

【0009】

複数の吸収部を二次元方向に配列することで構成されているものであってもよい。

【0010】

延長部は、吸収部から外側に向かって上方に伸びる傾斜面を有していてもよい。

【0011】

接続した延長部の端部どうしが、上方に向かって凸部を形成していてもよい。

【0012】

接続した延長部の端部どうしの外側の端に切欠きが形成されていてもよい。

【0013】

凸部に、切断箇所の目安となるマークが表示されていてもよい。

【0014】

吸収部は、延長部を切断することにより、別のペット用吸収シートとして使用できるものであってもよい。

【発明の効果】

【0015】

本発明によれば、ペット用吸収シート的一部分をカットしても吸収材がこぼれず、カットした一部分を使用することができる利便性の高いペット用吸収シートを提供することができる。

【図面の簡単な説明】

【0016】

【図1】本実施形態に係るペット用吸収シートの概略構成例を示す平面図である。

【図2】本実施形態に係るペット用吸収シートの概略構成例を示す断面図である。

【図3】本実施形態に係るペット用吸収シートの構造を模式的に説明する図である。

【図4】本実施形態に係るペット用吸収シートの使用方法の一例を示す図である。

【図5】本実施形態に係るペット用吸収シートの使用方法の一例を示す断面図である。

【図6】本実施形態に係るペット用吸収シートの使用方法の他の例を示す図である。

【図7】本実施形態に係るペット用吸収シートの変形例を示す平面図である。

【発明を実施するための形態】

【0017】

本発明の実施形態の例について、以下、図に基づいて説明する。

【0018】

図1は、本実施形態に係るペット用吸収シートの概略構成例を示す平面図である。ペット用吸収シート1は、二次元方向に配列されて接続された複数の部分シート1aから構成される。図1の例では、部分シート1aが、図1の紙面縦方向に3つ、紙面横方向に2つ、合計6つ連続して配置されている。

【0019】

部分シート1aは、延長部2と、吸収部3とを有する。延長部2は、吸収部3の周囲を囲うように配置されている。部分シート1aは、その延長部2の端部が他の部分シート1aの延長部2の端部と接続することにより、他の部分シート1aと繋がっている。

【0020】

延長部2は、透液性の表面材21と、不透液性の裏面材22とから構成される。裏面材22は使用時に床面やトイレトレーと接し、ペット用吸収シート1の最下面となる。一方、表面材21は、使用時にペットが乗る面であり、ペット用吸収シート1の最上面となる。

【0021】

透液性の表面材21は、液保持性がないか極めて低いもので、液を素早く通過させやすい材料であれば、特に限定されない。表面材21は、例えば、不織布や樹脂性の多孔性フィルムシート等から形成される。

【0022】

10

20

30

40

50

不透液性の裏面材 2 2 は、液を透過しないか透過しにくい材料であれば、特に限定されない。裏面材 2 2 は、例えば、ポリエチレンシート、合成樹脂性の液不透過性フィルムや撥水性の不織布等から形成される。

【 0 0 2 3 】

延長部 2 は、表面材 2 1 と裏面材 2 2 をヒートシール、接着剤、または圧着等により接着することにより形成される。

【 0 0 2 4 】

吸収部 3 は、吸収材 3 1 を表面材 2 1 と裏面材 2 2 の間に包んで構成される。吸収材 3 1 は、液を吸収保持する材料であれば、特に限定されない。吸収材 3 1 は、例えば、粉砕パルプ、高分子吸収ポリマー及び吸収紙から構成される。

10

【 0 0 2 5 】

吸収材 3 1 は、表面材 2 1 と裏面材 2 2 との間に封入され、表面材 2 1 と裏面材 2 2 の間から漏れ出さないようになっている。

【 0 0 2 6 】

ここで、延長部 2 は、吸収部 3 を構成している表面材 2 1 と裏面材 2 2 を外方向に延出した表面材 2 1 と裏面材 2 2 を接着して構成されている。つまり、延長部 2 の表面材 2 1 及び裏面材 2 2 と、吸収部 3 の表面材 2 1 及び裏面材 2 2 は、互いに連続している。

【 0 0 2 7 】

このように、ペット用吸収シート 1 は、1 枚の表面材シートと 1 枚の裏面材シートを重ね、各部分シート 1 a の延長部 2 に相当する部分を接着することで構成されている。各部分シート 1 a の吸収材 3 1 は、延長部 2 を形成した後に吸収部 3 内に注入してもよいし、延長部 2 を形成する前に配置してもよい。

20

【 0 0 2 8 】

図 2 は、本実施形態に係るペット用吸収シートの概略構成例を示す断面図（図 1 の A - A 断面）である。図 3 は、本実施形態に係るペット用吸収シートの構造を模式的に説明する図である。

【 0 0 2 9 】

図 2 に示すように、2 枚の部分シート 1 a（図の左側の部分シート 1 a を第 1 の部分シート 1 0、右側を第 2 の部分シート 1 1 とする）が繋がっている。図の左側から順に、第 1 の部分シート 1 0 の左の延長部 2、第 1 の部分シート 1 0 の吸収部 3、第 1 の部分シート 1 0 の右の延長部 2、第 2 の部分シート 1 1 の左の延長部 2、第 2 の部分シート 1 1 の吸収部 3、第 2 の部分シート 1 1 の右の延長部 2 のように連続して配置されている。

30

【 0 0 3 0 】

図 3 に示すように、吸収材 3 1 は、表面材 2 1 と裏面材 2 2 の間に配置される。吸収材 3 1 は、外側に延出する延長部 2 の表面材 2 1 と裏面材 2 2 が接着されることにより包まれ、こぼれないように形成されている。

【 0 0 3 1 】

延長部 2 は、その基部 4 から端部にかけて裏面材側から表面材側に向かって上る傾斜面を構成している。図の例では、延長部 2 は若干湾曲しているが、平面であってもよい。基部 4 は、吸収部 3 と延長部 2 の境となる部分であり、最下部に位置している。延長部 2 の端部は、吸収部 3 の最上面（すなわち表面材 2 1）の延長線上に位置している。もちろん、延長部 2 の端部の位置は、吸収部 3 の最上面の延長線よりも高くてもよいし低くてもよい。

40

【 0 0 3 2 】

延長部 2 の傾斜は、延長部 2 の基部 4 をプレス等による圧をかけて曲げることにより加工して形成することができる。なお、基部 4 から傾斜面を開始するのではなく、基部 4 から一定間隔を空けた位置から傾斜面を開始してもよい。

【 0 0 3 3 】

このように、延長部 2 側の表面材 2 1 と吸収部 3 側の表面材 2 1 とは、断面視において溝を形成している。また、第 1 の部分シート 1 0 の右の延長部 2 の端部と第 2 の部分シ

50

ト 1 1 の左の延長部 2 の端部は接続されているので、これらは断面視において凸部 5 を形成している。吸収部 3 を取り囲む延長部 2 は、上方から下方に向かって内側に窄まるテーパ状に形成されているとも言える。

【 0 0 3 4 】

なお、図 1 に示すように、2 つの部分シート 1 a の接続部分の外側、すなわち接続された延長部 2 の境界の外側には、切欠き 6 が設けられている。具体的には、切欠き 6 は、ペット用吸収シート 1 の外周を形作る各部分シート 1 a の延長部 2 の凸部 5 の頂部の端に設けられる。

【 0 0 3 5 】

図 4 は、本実施形態に係るペット用吸収シートの使用法の一例を示す図である。図 5 は、図 4 の B - B 断面図である。 10

【 0 0 3 6 】

図 4 ( a ) に示すように、ペット用吸収シート 1 を 2 枚用意する。一方のペット用吸収シート 1 は、トイレレー等のペットが排泄する場所に敷いておく。他方のペット用吸収シート 1 は、ある切欠き 6 から手やハサミ等の道具により凸部 5 の頂部に沿って切断し、部分シート 1 a を一つ作る。

【 0 0 3 7 】

図 4 ( b ) に示すように、トイレレー等に敷いたペット用吸収シート 1 上で、ペットがよく排泄する箇所に部分シート 1 a を重ねて設置する。ペットの排泄により部分シート 1 a が汚れたら、当該部分シート 1 a のみ廃棄する。そして、また別の部分シート 1 a を用意して設置する。 20

【 0 0 3 8 】

本実施形態のペット用吸収シート 1 によれば、ペット用吸収シート 1 の一部分である延長部 2 をカットしても吸収材 3 1 がこぼれず、カットした一部分を使用することができる利便性の高いペット用吸収シートを提供することができる。すなわち、部分シート 1 a のみを交換する使い方ができるので、ペット用吸収シート 1 の一部が汚れた場合に全部を交換しなくても済み、廃棄するごみの量を減らすことができる。また、1 枚のペット用吸収シート 1 を複数の部分シート 1 a に分割して用意しておけば、ペット用吸収シート 1 の特定の箇所に重ねるだけなので取り扱いが簡便となる。さらに、吸収材 3 1 が包まれている吸収部 3 を切ることなく、小分けにすることが可能で、顆粒状の吸収材 3 1 がこぼれて掃除が必要となったり、ペットが吸収材 3 1 を誤飲したりする恐れがない。また、部分シート 1 a の延長部 2 が傾斜面を形成している為、排泄物が吸収部 3 に流れ込みやすく、部分シート 1 a あるいはペット用吸収シート 1 の外に漏れてしまうのを防ぐことができる。また、凸部 5 や切欠き 6 は、ユーザが延長部 2 をカットする際の目印となり直感的に分かり易い。 30

【 0 0 3 9 】

図 6 は、本実施形態に係るペット用吸収シートの使用法の他の例を示す図である。

【 0 0 4 0 】

図 6 ( a ) に示すように、ペットトイレ等に敷いたペット用吸収シート 1 の一部分が汚れた場合に、汚れた部分を含む部分シート 1 b を切断する。他のペット用吸収シート 1 を切断して部分シート 1 a を作る。 40

【 0 0 4 1 】

図 6 ( b ) に示すように、汚れた部分を含む部分シート 1 b を除いた部分に、部分シート 1 a を配置する。

【 0 0 4 2 】

部分シート 1 b を切断して出来たスペースに部分シート 1 a を配置すると、部分シート 1 a の延長部 2 は、隣の部分シート 1 a の延長部 2 と隣接して凸部 5 を形成する。従って、排泄物が吸収部 3 に流れ込みやすく、部分シート 1 a あるいはペット用吸収シート 1 の外に漏れてしまうのを防ぐことができる。

【 0 0 4 3 】

なお、使用方法は、図４～図６に示すように、ペット用吸収シート１（又は１枚の部分シート１aが切り取られたペット用吸収シート１）と１枚の部分シート１aとを組み合わせる方法に限られない。例えば、複数枚の繋がったままの部分シート１aをペット用吸収シート１に重ねてもよいし、ペット用吸収シート１から複数枚の部分シート１aを切除してもよいし、切除した部分を複数枚の繋がったままの部分シート１aに交換してもよい。また例えば、１枚の部分シート１a又は複数枚の繋がったままの部分シート１aをペットトイレ等に敷くなどして使ってもよい。

【００４４】

図７は、本実施形態に係るペット用吸収シートの変形例を示す平面図である。

【００４５】

図７に示すように、ペット用吸収シート１の凸部５の頂部に沿って、切断部分の目安となるようにマーク７を表示してもよい。破線等によりマーク７を表示することで、切断箇所が明確となり、部分シート１aを作りやすくなる。マーク７は、例えば、印刷により表示できる。

【００４６】

なお、本実施形態において、延長部２は、表面材２１と裏面材２２から構成されたが、表面材２１と裏面材２２の間に、吸収材３１の一部である吸収材３１から延出する吸収紙をさらに含んでいてもよい。延長部２にも吸収紙を備えることで、排泄物が効率よく吸収部３に流れて吸収保持され、ペット用吸収シート１からの漏れをより効果的に防ぐことができる。

【００４７】

また、延長部２は、基部４から又は基部４から一定間隔を空けた位置から上る第１の傾斜面と、当該第１の傾斜面の端部から下がる第２の傾斜面とで構成されていてもよい。すなわち、延長部２は、山型に折れ曲がった形状をしていてもよい。この場合、部分シート１aの延長部２と他の部分シート１aの延長部２の接続部分には、凸部５が２つ形成されることになる。

【００４８】

延長部２の端部が山型の形状をしていることで、ペット用吸収シート１に部分シート１aを重ねた際に（図４の使用法）、上側の部分シート１aの延長部２と下側の部分シート１aの延長部２との間の隙間への開口を狭くすることができる。これにより、排泄物の隙間への流入を低減することができる。

【００４９】

また、部分シート１bを切断して出来たスペースに部分シート１aを配置する際に（図６の使用法）、当該部分シート１aの延長部２の凸部５を、隣の部分シート１aの延長部２の凸部５に重ねることもできる。このようにすれば、部分シート１aが隣の部分シート１aに引っ掛かって固定され、ずれにくくなる。

【００５０】

なお、延長部２には、凸部５が２つ以上形成されていてもよい。このようにすれば、部分シート１aを隣の部分シート１aによりしっかり固定することができる。

【００５１】

以上、本発明の実施形態及びその変形例を説明したが、上記に記載した実施形態及びその変形例は特許請求の範囲に係る発明を限定するものではない。各実施形態及びその変形例は、それぞれの特徴を組み合わせることができる。上記のいずれかのペット用吸収シートが、他のペット用吸収シートの特徴を併せ持つものであってもよい。また、実施形態及びその変形例の中で説明した特徴の組み合わせの全てが発明の課題を解決するための手段に必須であるとは限らない点に留意すべきである。例えば、延長部２は傾斜面を備えてなくてもよいし、切欠き６を備えていなくてもよい。

【符号の説明】

【００５２】

１：ペット用吸収シート

10

20

30

40

50

- 1 a , 1 b : 部分シート
- 2 : 延長部
- 3 : 吸収部
- 4 : 基部
- 5 : 凸部
- 6 : 切欠き
- 7 : マーク
- 1 0 , 1 1 : 部分シート
- 2 1 : 表面材
- 2 2 : 裏面材
- 3 1 : 吸収材

10

【要約】 (修正有)

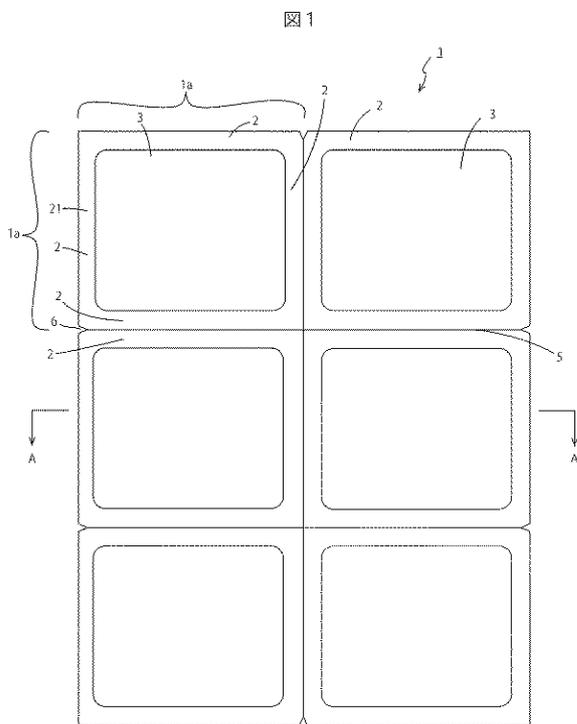
【課題】 ペット用吸収シート的一部分をカットしても吸収材がこぼれず、カットした一部分を使用することができる利便性の高いペット用吸収シートを提供する。

【解決手段】 透液性の表面材 2 1 と、不透液性の裏面材と、吸収材と、を備え、表面材 2 1 と裏面材との間に吸収材を包んで構成される吸収部 3 と、吸収材を包む表面材 2 1 と裏面材とが延出して該吸収部を囲うように設けられた延長部 2 と、を備え、複数の吸収部 3 が、延長部 2 の端部を互いに接続して配列されていることを特徴とするペット用吸収シート。

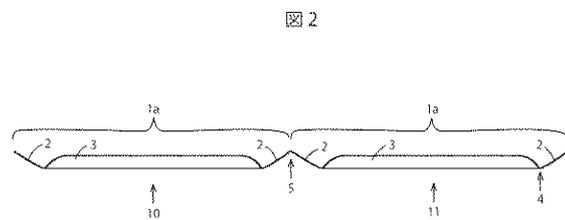
【選択図】 図 1

20

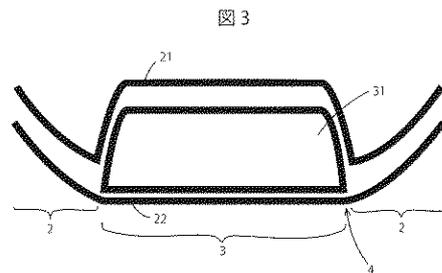
【図 1】



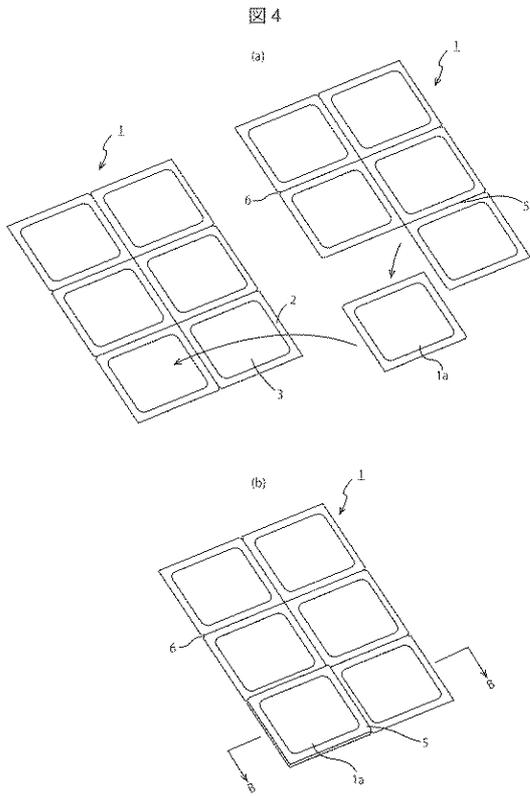
【図 2】



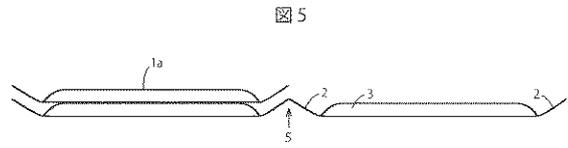
【図 3】



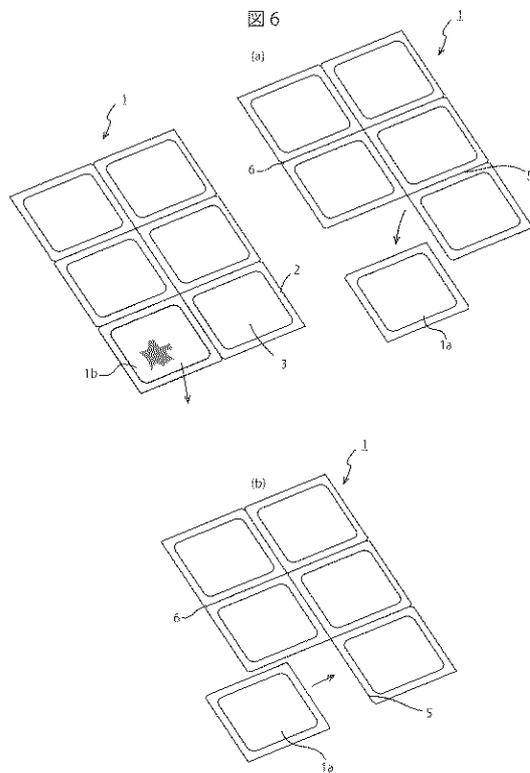
【 図 4 】



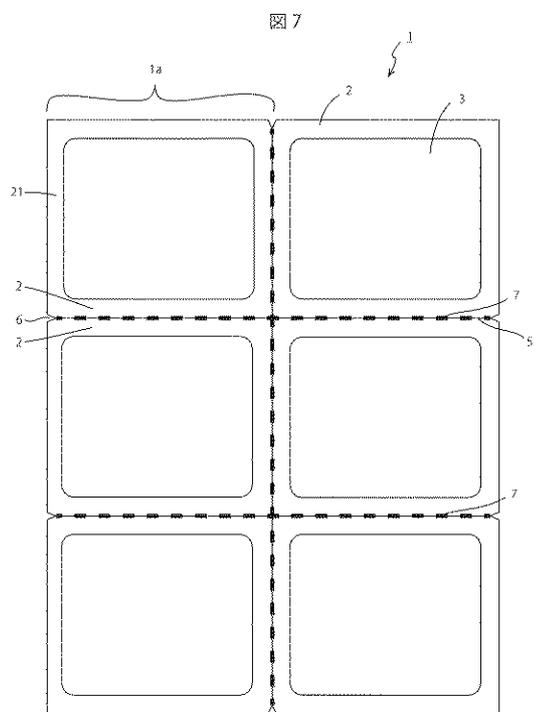
【 図 5 】



【 図 6 】



【 図 7 】



---

フロントページの続き

- (56)参考文献 特開2001-352852(JP,A)  
特開2008-073187(JP,A)  
特開2000-210320(JP,A)  
特開2014-195412(JP,A)  
特開2015-119654(JP,A)  
米国特許出願公開第2007/0071933(US,A1)  
特開平10-072063(JP,A)  
特開2013-151297(JP,A)  
米国特許出願公開第2013/0269624(US,A1)

(58)調査した分野(Int.Cl., DB名)

A01K	1/015
A61F	13/00
A61F	13/15
A61F	13/47
B65D	81/26